

# 身体動作を伴った音楽表現学習

—「子もり歌」の機能に着目した授業実践を通して—

今 由佳里

皇學館大学

---

## Musical Expression through Physical Movements in Elementary School Children From the Point of View of the Function of Lullabies

Yukari KON

Kogakkan University

The purpose of this study is to examine the effectiveness of learning lullabies through physical movements. I studied fifth grade children's learning capabilities using the following five hypotheses:

- 1) Children can understand the function of a lullaby.
- 2) Children can clearly understand the musical characteristics of a lullaby.
- 3) This method motivates children to express themselves physically while listening to music.
- 4) Children can exchange and share their physical movements with classmates and other groups.
- 5) Children can understand the feelings of a person who is singing to a baby.

In this paper, the classroom activities were analyzed from a viewpoint of these hypotheses, and the method of learning was validated.

キーワード／身体動作, 疑似体験, 子もり歌の機能, 音楽授業, 音楽表現

Key word／physical movements, role playing, function of lullabies, music teaching in classroom, musical expression

---

### I はじめに

音楽科で求められる教育成果の一つに、表現力の育成が挙げられる。しかしながら、時に子どもたちの活動が、単なる表出に止まっているのではなからうかと危惧を感じる場面がある。そこで子どもたちの音楽表現力を伸張させるため、身体動作を取り入れた学習を思考する。本稿では、子もり歌が有する「眠らせ歌」という機能に着目し、どのように歌えば赤ちゃんを眠らせられることができるのかを、身体動作を伴った疑似体験を通して考え、音楽表現力を養う学習を試行した。

「子もり歌」<sup>1)</sup>が小学校歌唱共通教材として取り上げられるようになってから半世紀を経ようとしている。従来、子もり歌の学習は、陰・陽の音階の聴きわけや、歌い比べの学習が中心に行われてきた。その代表的な例として、教師用指導書<sup>2)</sup>

における「子もり歌」授業展開例が挙げられる。しかしながら、このような学習で子どもたちは、子もり歌が本来有している赤ちゃんを寝かしつけるという機能を理解し、子もり歌にふさわしい表現ができるのであろうか。

子もり歌の音楽表現に関する先行研究としては、加藤<sup>3)</sup>の研究が挙げられる。加藤は、子もり歌を生活文化の視点から検討し、その機能に注目した音楽授業の有効性を明らかにした。加藤はまた、子もり歌の音楽的特徴として、①優しく静かな声質、②ゆったりとしたリズム感、③ゆるやかなテンポ感、④反復されるリズムパターン、⑤簡易な旋律線、⑥拍節的な進行を挙げている。

ここで、養育者が子もり歌を赤ちゃんへ歌いかける様子を見ると、加藤が指摘している以上の音楽的特徴が見られると同時に、多くの場合何らか

の身体動作を伴っていることがわかる。そしてこの身体動作が子もり歌の音楽表現を深める上で重要な役割を担っているものではなからうか。そこで本研究では、子もり歌の学習について、実際に赤ちゃん人形を寝かしつける身体動作を伴った疑似体験を導入した学習を展開する。

子どもたち自身が疑似体験として養育者を演じるためには、対象者をよく観察し、子もり歌が果たす機能を考えなければならない。また、役割を演じることにより、単に子もり歌を聞いているだけでは気づかなかった表現や湧いてくる感情を発見することもできるだろう。従って、このような学習は、子どもたちの音楽表現を自発的なものにすると考えられる。

本研究では、以上のような考えに基づいて身体動作を伴った子もり歌の学習が、子どもたちの音楽表現を深めるために有効であるということを実践を通して明らかにする。なお、取り上げる子もり歌は、現在、歌唱共通教材としても取りあげられている「子もり歌」と同種の“眠らせ歌”<sup>4)</sup>である。

## II 研究の仮説

研究の仮説は、以下の通りである。

子もり歌の学習を、「身体動作」を伴い展開すれば、子どもたちの学習において、以下の成果を得ることができるであろう。

- 1) 子もり歌の機能を理解することができる。
- 2) 子もり歌が有する音楽的特徴を具体的に理解できる。
- 3) 音楽表現に関する意欲を引き出すことができる。
- 4) 個々人の身体動作を、友人や集団と交換したり、共有したりできる。
- 5) 子もり歌を歌う人の気持ちを理解できる。

## III 授業実践の概要

【対象者】徳島県鳴門市立黒崎小学校第5学年  
(在籍児童33名)

【授業日時】2005年1月24日(月)第6限  
1月26日(水)第6限  
【指導者】赤穂博子 今由佳里

### 1 児童の実態

本実践に先立って、既に子どもたちは、教科書に掲載されている「子もり歌」について赤穂教諭の指導を受けていた。その内容は、陰音階と陽音階の違いを感じ取る学習であった。この学習によって、子どもたちは、子もり歌に対する関心を持つことができたものの、歌唱の学習では、子もり歌の持つ静かで穏やかな曲想を教師が強調したため、子どもたちの表現に抑制的な傾向が見られた。

### 2 教材

歌唱教材としては《撫養の子守唄》<sup>5)</sup>、《(スイスの子もり歌) Dodo l'enfant do》<sup>6)</sup>、鑑賞教材としては《(南アフリカ・ズールー族の)子もり歌》、《(韓国の)子もり歌》及び《(フランスの子もり歌) Fais dodo, Colas》を取り上げた。これらは何れも“眠らせ歌”であり、子もり歌が有する機能と音楽的特徴の共通性を理解しやすい。また、子もり歌に伴う身体動作に着目することによって、地域に伝承されている子もり歌から世界の子もり歌へと学習内容を拡大することができ、子もり歌が有する表現の普遍性を理解できる。



#### 譜例1：《撫養の子守唄》

《撫養の子もり歌》 採譜：今由佳里

#### 譜例2：《Dodo l'enfant do》

《Dodo l'enfant do》 採譜：今由佳里



### 3 授業の進行

授業の進行は、以下の通りである。

第1時
1. 指導者が歌う《撫養の子守唄》を鑑賞する。 2. 子もり歌について話し合う。 3. 伝承者、安宅さわ代氏が歌う《撫養の子守唄》のVTRを鑑賞する。 4. 身体動作を伴った歌唱表現を工夫する。 5. 本時のまとめ。
第2時
1. 《撫養の子守唄》を歌唱する。 2. 世界の子もり歌を鑑賞し、共通性を理解する。 3. 指導者が歌う《Dodo l'enfant do》を鑑賞する。 4. 《Dodo l'enfant do》を歌唱する。 5. 日本と世界の子もり歌の共通性や相違性を考える。 6. 子もり歌学習についてのまとめ。

### IV 授業実践の記録と仮説の視点からの分析

授業の記録に基づいて、仮説の視点から分析を試みる。また、仮説を子どもの視点から支えるものとして、授業前及び授業中に行ったワークシートの分析も加える。

#### 1. 授業実践の記録

授業の記録は、以下のとおりである。

【表1 第1時の授業記録】

目標：1. 子もり歌の機能を理解する。 2. 疑似体験を通して、表現の工夫を考える。

学習活動	教師の支援	子どもたちの様子
①指導者が歌う《撫養の子守唄》を鑑賞する(指導者赤穂が歌唱)。	・赤ちゃん人形を“おいご(ねんねこはんでん)”で背負い、《撫養の子守唄》を歌う。	・子どもたちは全員、赤ちゃん人形を背負って子もり歌を歌っている赤穂教諭に注目している(写真1)。赤穂教諭をよく見ようと伸び上がってみている子どもも数多く見られ、その子守りをしている姿に興味を持ちつつ、子もり歌をよく聴いている。 <b>【写真1】</b>
②子もり歌について話し合う。(前時の宿題ワークシートその1を活用)	・幼児期に歌ってもらった「子もり歌」についてや、赤ちゃんはどのように寝かしつけられているかについてを発言させる。	(a) 子どもたちは、発表者のほうに体を向けて、うんうんと相槌をうったり、ジェスチャーを加えたりしながら発表を聞いている。 (b) 赤ちゃんは、どのように寝かしつけられているかを発表した時には、「優しく抱いて、“ばあ”っていいながら寝かしつけられている」「だっこをして、お尻を軽く叩いている」「背中をぼんぼん軽く叩いてゆさぶる」「お母さんと添い寝をして、やさしく赤ちゃんの背中を叩いてねかせる」等の発言が見られ、赤ちゃんを寝かせる時に加えられる身体動作の様子をよく観察してきている。 (c) 《撫養の子守唄》について「小さい頃おばあちゃんが歌ってくれた子もり歌」という記述をした子どもに、クラスの子どもたちの関心が集まる。
③安宅さわ代氏(大正6年、鳴門市撫養町生れ)が歌う《撫養の子守唄》を鑑賞する。	・《撫養の子守唄》がどのように歌われているか、雰囲気(身体動作を含む)や音楽的特徴を感じ取れるよう支援する。	・同じ地区に住んでいる人が歌った映像だということで、子どもたちは親しみを持って鑑賞に臨んでいる。1度目の鑑賞は、安宅氏が歌っている様子を観察し、2度目はワークシートの設問に置かれた観点に注意し視聴しており、どちらもよく聴いている。
④子もり歌が持つ機能を理解し、身体動作を伴って歌唱表現の工夫をする(グループ活動)。赤ちゃんの寝かせ方には、①布団を用いる ②だっこする ③“おいご”を着ておんぶする。	・子どもたちが、赤ちゃん人形へ歌いかけることによって、子もり歌が持つ機能に気づかせ表現力を高める。 ・赤ちゃん人形を背負い“おいご”を実際に着てみることで、子もり歌が歌われた雰囲気を把握させる。 ・出だしのリズムが、子どもを寝かせる時のトントンという手の動作に因んでいることに気づかせる。	・最初に教師が「今日はみんなに赤ちゃんのお父さん、お母さんになってもらいます」といって、子どもたちは、目を見開いたり、隣の人と顔を見合わせたりして次の活動を期待している。赤ちゃん人形を受け取る時の子どもたちは、驚いた表情をする子もいれば、赤ちゃん人形だけを見つめて手を差し出し、早く手渡されるのを待っている子もいた。「赤ちゃんを大事にしてね」と教師が子どもたちにいうと、子どもたちは、みな一様に赤ちゃん人形を見ながらうんうんと頷き、大切そうに両手でしっかりと抱きしめてグループへ連れ帰っている。子どもたちは、はじめ、人形自体への興味が先行していたが、次第に抱っこしたり(写真2)、“おいご”を着て赤ちゃんをおんぶしたり(写真3)、赤ちゃんを布団に寝かせてトントンという身体動作を加えたりして(写真4)子もり歌の表現方法を模索している。 <b>【写真2】</b> <b>【写真3】</b> <b>【写真4】</b>
⑤本時のまとめ、ワークシートその2に感想や気づいたことを書く。	・《撫養の子守唄》の歌唱表現を振りかえさせる。	・感想中に、「こもり歌を母さんがいつも歌ってくれていたのはすごくうれしかったです。このこもり歌を勉強して改めて愛を感じた」「子もり歌はただ赤ちゃんをねむらせるだけではなく、祖母や母親の愛情がこめられているということがよくわかりました」という意見が見られた。また、M(男子)の「赤ちゃんがそうやって歌うのってこりするから」の発表後、子どもたちの中から自然に拍手が湧き起こった。(子どもたちの具体的な表現の内容については、8頁の【表3】を参照のこと。)

【表2 第2時の授業記録】

目標：1. スイスの子もり歌に親しみ、歌唱表現を工夫する。 2. 日本と世界の子もり歌の普遍的な特徴を身体動作を通して理解する。

学習活動	教師の支援	子どもたちの様子
⑥前時に学習した《撫養の子守唄》を歌う。	・前時の学習から子もり歌の特徴を思い起こさせる。	・歌唱表現中、教師が赤ちゃん人形を抱き上げ、トントンという身体動作を加えると、ほぼ全員の視線が赤ちゃん人形に注がれた。また教師が赤ちゃん人形に歌いかけながら子どもたちの周りを歩くと、赤ちゃん人形の頬をなでようとする子どももいる。
⑦世界で歌われている子もり歌をMDやビデオで鑑賞し、子もり歌の類似性について理解を深める。	・子もり歌がどのような声で歌われているか、どのような身体動作が加わっているかを注意深く鑑賞させる。 ・「ねんね」という言葉をキーワードに、子もり歌が持つ機能と音楽的類似性について気づかせる。	(a) “韓国の子もり歌”：韓国の子もり歌を聞いた瞬間、“これは何だろう？”というようにお互いの顔を見合わせている。鑑賞後、「わからん、言葉」等口々に率直な感想を述べている。 (b) “南アフリカの子もり歌”：南アフリカ・ズール族の若いお母さんが赤ちゃんを抱っこし揺すりながら子もり歌を歌いかけている映像を視聴した。子どもたちは、映像に映る南アフリカの生活や母親の子守り姿に興味を示し、「(南アフリカって) こういうところなんだ」と呟いている子どももいた。 (c) “フランスの子もり歌”：子もり歌が始まると、子どもたちはシーンとして聞き入っている。
⑧指導者の歌唱によるスイス・ロマンドの子もり歌《Dodo lenfant do》を鑑賞する(指導者今が歌唱)。	・スイスで使われているゆりかごの写真を掲示し、日本とスイスの赤ちゃんの寝かせ方の違いや生活習慣の違いを感じ取らせる。しかし、子もり歌が有する機能は同一であることに気づかせる。	・スイス・ロマンド地方で用いられている「ゆりかご」の写真(写真5)に子どもたちは非常に興味を持っている。教室の中にこのゆりかごを再現し、教師がゆりかごを揺らしながら子もり歌を歌唱すると、子どもたちは、興味をひきつけられていた。歌唱後、「いい歌だ」という発言が子どもたちから発せられた。  【写真5】
⑨スイスの子もり歌《Dodo lenfant do》を原語で歌う。	・“dodo”という言葉が“ねんね”にあたるということを気づかせる。 ・歌詞の内容を説明する。 ・子もり歌を歌いながら赤ちゃん人形を寝かしつけるよう雰囲気作りをする。 ・子もり歌にふさわしい表現ができるように支援する。	(a) 教師が「今日の授業は、スイスの子もり歌をフランス語で歌いましょう」というと、子どもは目を大きく見開いて驚いたり、言葉や発音がわからないと口々に言っていたが、表情は生き生きとしていてスイスの子もり歌を歌唱することを楽しみにしている。 (b) 歌唱表現中、教師が赤ちゃん人形を何人かの子どもたちに手渡していった(写真6)。恥ずかしそうに赤ちゃんを抱いている子どももいたが、A(男子)は自分から「僕やりたい」と赤ちゃん人形を教師から受け取っており、意識の変化が見られた。Aは、赤ちゃん人形をだっこしながら、また彼の隣の席の子どもたちは、赤ちゃん人形の顔をみつめながら子もり歌を歌っていた。  【写真6】
⑩日本と世界の子もり歌との共通性・相違性をワークシートその3へ記入する。グループ活動。	・前時にまとめた日本の子もり歌の特徴を思い起こさせる。 ・机間指導を行い、子もり歌の特徴について助言する。 ・国を超えた子もり歌の普遍性に気づかせる。	・グループの中で、子どもたちが自分の意見を発表し、その後、意見をまとめる活動を行っている。「似ているところ」として、「ねんね」という言葉を全部の班があげている。その他の意見としては「どこの国も赤ちゃんが安心して眠れるような優しい声で歌っている」「速さが同じ」「静か」「赤ちゃんを愛する心」「寝かせ方」「ゆりかご」「リズム」「歌詞」「言葉」「声の高さ」等を挙げている。この活動によって、外国の子もり歌も日本と同じように赤ちゃんを眠らせる機能を有し、それにふさわしい表現をしていたことを理解した。
⑪子もり歌学習についてのまとめ。	・子もり歌に伴う身体動作から、子もり歌の機能を理解し、表現に活かせるかを振り返らせる。	・ワークシートには、「私が大人になったら今日まで学んだことを使いたいと思います。子もり歌のことを勉強してよかったです。また子もり歌の勉強がしたいです」や「おいごをつかって赤ちゃんを背負ったりする体験ができてよかったです！ また子もり歌の勉強がしたいです」等“よかった”や“楽しかった”、“また子もり歌の勉強がしたい”という意見が多数見られた。

2 仮説の視点からの授業記録分析

身体動作を伴った子もり歌学習の有効性について、冒頭IIに記した仮説に則って授業の分析を行う。なお、文中で用いている装飾数字は、「表1」「表2」の授業記録に記されているものに対応する。

仮説1) 子もり歌の機能を理解することができたか。

②の活動で子どもたちは、赤ちゃんが寝かされ

ている様子を一人ひとりが観察し、子もり歌の持つはたらきやどのような身体動作が赤ちゃんへ加えられているかを発表している。この活動によって、子どもたちは、子もり歌が持つ機能に少しずつ気づき始めている。④、子どもたち自身が養育者となり、おんぶやだっこ等で赤ちゃん人形を寝かしつける疑似体験では、子どもたちは、子もり歌の機能を具体的に理解し、表現へと繋げている。更に⑦の活動では、子もり歌歌唱時における各国の赤ちゃんの寝かせ方に注目することによって、

子もり歌が有する機能の普遍性に気づくことができた。まとめの活動⑩では、子どもたちは、国や文化が異なっても子もり歌は赤ちゃんを寝かしつけるための機能を有する歌であるという認識を示した。身体動作を伴った学習が、子もり歌の機能を理解し、音楽表現をより意味のあるものにしており、子どもの学習に効果的であったことがわかる。

#### 仮説2) 子もり歌が有する音楽的特徴を具体的に理解できたか。

子どもたちは、③の安宅氏の子もり歌歌唱時における身体動作から子もり歌の音楽的特徴に気づいている。このことは、鑑賞後におこなった「曲の早さ」や「どんな声で歌っていたか」という質問に対し、ゆっくりとやわらかい声で歌っていたという多くの子どもたちの発言からも推察できる。また「体をゆすりながら歌っている」という回答も見られ、子もり歌に伴う身体動作と子もり歌の音楽的特徴との関連をよく観察しながら鑑賞していたことがわかる。

④の活動では、赤ちゃんが寝かされている様子を事前に観察してきていたため、教師が指示する前からトントンという身体動作を赤ちゃん人形へ加えている子どもがいた。その動作は、赤ちゃんを起こさないような静かでやさしいものであり、歌唱表現へも反映された。

⑤においては、ほぼ全員の子どもたちが、「赤ちゃんがはやく眠れるように静かな声で歌った」や「小さい声で優しく歌ってあげた」と回答しており、子もり歌にふさわしい表現を工夫したことがわかる。これは、第2時の⑩における発言でも見られ、疑似体験を行ったことで、子もり歌の音楽的特徴を具体的に理解し、表現へ活かしていたといえよう。

#### 仮説3) 子どもたちの音楽表現に関する意欲を引き出すことができたか。

疑似体験を取り入れた活動④で子どもたちは、

ねんねこはんでんを着て赤ちゃんをおんぶしたり、布団に寝かせながらトントンと身体動作を加えたり、だっこをして体を揺すったりと赤ちゃんを寝かしつけるための工夫を自発的に行い、歌唱表現に繋げようとしている。

⑧のスイス・ロマンドの子もり歌を鑑賞する活動で子どもたちは、教室に再現したスイスのゆりかごに大きな興味を示している。教師がこのゆりかごを揺らしながら《Dodo l'enfant do》を歌唱すると、子どもたちは興味深そうに聞き入っていた。その後の活動⑨では、子どもたちが、スイスの子もり歌に積極的に取り組み、歌唱表現している様子が伺えた。また、表2の⑨-(b)で示したA(男子)の積極的な発言も見られ、身体動作を伴った子もり歌学習が、子どもたちの音楽表現に関する意欲を引き出せる可能性があることを示唆できた。しかしながら、赤ちゃん人形を用いた授業の方法には課題が残った。

#### 仮説4) 個々人の身体動作を、友人や集団と交換したり、共有したりできたか。

②では、幼少時に歌ってもらった子もり歌について子どもたちが発表し、教師がその子もり歌を少しずつ歌いながらクラスみんなに紹介している。発表する子どもは、ジェスチャーを加えたりしながら、自分が幼かった頃に歌ってもらった子もり歌を紹介した。友だちが幼少時、どのように子もり歌を歌ってもらっていたのか、その様子をクラス全員でイメージすることができ、共有することができた。この活動によって、子どもたちが子もり歌の表現について具体的イメージを持ち、歌唱表現の工夫をするための基礎を作ることができたといえよう。

それぞれが赤ちゃん人形を寝かしつけながら歌う④の活動では、子どもたちは、友だちがどのように赤ちゃん人形を寝かしつけているかをよく観察しており、身体動作を交換及び共有することができた。また、表2の⑨-(b)に示しているような子どもたちの共有の様子も見られ、子もり歌に伴う

身体動作を友人や集団と交換・共有できたことがわかる。

仮説5) 子もり歌を歌う人の気持ちを理解できたか。

養育者の立場に立って子もり歌を歌った④の活動によって、子どもたちは、子もり歌に込められている「愛」や「慈しみ」、「思いやり」の心に気づくことができた。これは、活動⑤における子どもたちの発言内容から推察できる。また、活動⑩では、世界の子もり歌の共通性として「赤ちゃんを愛する心」という発言も見られた。子どもたちは、子もり歌とはどこの国でも母親や家族が赤ちゃんを眠らせるために愛情を込めて歌っていることに気づいている。このような子もり歌の学習は、子どもの精神面にも影響し、向上させていることがわかる。

3 ワークシートの記述と仮説の視点からの分析  
本授業では、以下3枚のワークシートを使用した。

5年「子もり歌」ワークシート その2


名前 ( )

1. 《無愛の子もり歌》を聞いて、あてはまる方の番号に○をつけよう。  
\*声の高さはどうでしたか? (1) 全体的に高い (2) 全体的に低い  
\*曲の速さはどうでしたか? (1) ゆっくり (2) はやい  
\*どのような声で歌いましたか? (1) やわらかい声 (2) 力強い声  
メモ:他に何か気づいたことがあったら書きましょう。

2. あなたは、《無愛の子もり歌》を赤ちゃんにどういう風に歌ってあげましたか?  

どんな声で歌いましたか	その理由はなぜですか?

3. 今日の学習でどんなことに気づきましたか? 自由に感想を書きましょう。



(その2: 第1時の授業中に記入)


5年「子もり歌」ワークシート その3

名前 ( )

1. 世界の子もり歌を学習して、日本の子もり歌と似ているところがありましたか? また、違ったところがありましたか?  

似ているところ	違ったところ

2. 日本や世界の子もり歌を学習して、わかったこと、おもしろかったこと、思ったことなどを自由に書きましょう。



(その3: 第2時の授業中に記入)

5年「子もり歌」ワークシート その1


名前 ( )

1. 小さい時、どのような歌を子守り歌として歌ってもらったか家族にきいてみよう。

誰が歌ってくれましたか? 例: 父、母、おばあさん、おじいさん、お爺さん、お婆さん	どのような風に歌ってくれましたか? 例: 赤くぬれるように静かな声で等	歌の歌詞を書いてみよう 例: おんねんころりよ おころりよ 夢の中で世界したものを「おねんね」といっしょに等で歌われている歌でもかまいません

2. 赤ちゃんは、どのように寝かしつけられていますか? その様子を書いてみよう。(背中、いとこ、お母さん、自分が赤ちゃんの顔など)

保護者のみなさんへ  
3年生の音楽で、来週の月曜日に「無愛の子もり歌」を学習します。もしご家庭に「おいこ」がありましたら、お貸し下さい。



(その1: 第1時の事前記入)

「ワークシートその1」で子どもたちは、子もり歌における身体動作の重要性に気づき、記述している。設問1「小さい時どのような子もり歌を歌ってもらいましたか」では、子もり歌が身体動作を伴うことに気づき、そのことを記入している子どもが全体で13人も見られた。例を挙げると、「背中をポンポン軽くたたいて揺する」「顔を手で

さすりながら静かに歌い眠らせる」等である。また、設問2「赤ちゃんはどのように寝かしつけられていますか」においては、全ての回答が身体動作に関係している。回答は、だっこやおんぶ、布団等に横になって、乗り物を用いて等に分類できるが、背中をトントン叩く等の身体動作を加えて記述しているものがほとんどである。このワークシートによって、子どもたちは、子もり歌に身体動作が必要であることを意識化している。

「ワークシートその2」設問2「あなたは、《撫養の子もり歌》をどういう風に歌ってあげましたか」は、疑似体験として赤ちゃん人形を寝かしつけながら子もり歌を歌唱した後に記入したものである。回答から、ほぼ全員の子どもたちが、身体動作を伴った子もり歌を歌唱することによって、子もり歌が持つ機能を理解し、音楽表現へ反映させようとしていたことがわかった。

世界の子もり歌を鑑賞した後に記述した「ワークシートその3」設問1「世界の子もり歌を学習して、日本の子もり歌と似ているところがありましたか？」の回答から、子どもたちは、子もり歌が有する機能や表現の共通性を認識していることがわかる。

以下に本稿「Ⅱ 研究の仮説」に記した視点から、ワークシートの分析を試みる。

#### 仮説1) 子もり歌の機能を理解することができたか。

「ワークシートその1」を宿題にすることで、子どもたちは、子もり歌が有する機能を意識化することができた。「子もり歌をどういう風に歌ってくれましたか」という設問1に関しては、「眠くなるように優しい声で(歌ってもらった)」「早く眠れるようにだっこしながら、ゆっくりと小さな声で(歌ってもらった)」等の記入が見られ、赤ちゃんを寝かしつけるという子もり歌の機能に気づくことができた。また、赤ちゃんが寝かしつけられている様子を観察し、記入した設問2においては、どのような力具合の身体動作が赤ちゃん

へ加えられているか、その意味することは何かを考えることができ、そこから子もり歌の有する機能を意識化することができた。「子もり歌を歌いながら優しくトントンとして寝かしつけていた」「抱いて、少し揺らしながら、腰の辺りを軽くたたいてあげる」等の回答がこの例として挙げられる。これらのことから、子もり歌に伴う身体動作は全て、「優しい」或いは「軽い」等、乳児の眠りを誘うものであるということに子どもたちは気づいている。また、子どもたちが疑似体験を行った後に記入した「ワークシートその2」設問2「あなたは、《撫養の子もり歌》を赤ちゃんにどういう風に歌ってあげましたか」では、「赤ちゃんが眠れるように、優しく静かな声で歌った」「赤ちゃんが気持ちよく眠れるように、静かで優しい声で歌った」等の記入が多く見られ、子もり歌が有する機能を理解し、その機能に結びつけた音楽表現をしていることがわかる。

#### 仮説2) 子もり歌が有する音楽的特徴を具体的に理解できたか。

赤ちゃん人形をおんぶやだっこ、布団に寝かしつけるという身体動作を伴った歌唱を行った後に記入した「ワークシートその2」から、子どもたちが子もり歌の音楽性を理解する上で身体動作の効果が大きかったことがわかる(表3参照)。多くの子どもが、「早く眠れるように静かな声で歌った」「大きい声で歌ったら、赤ちゃんが眠れない」「小さい声で優しく歌ってあげた」等と回答しており、身体動作を取り入れることによって、子どもたちが子もり歌の音楽的特徴を理解し、自然に、子もり歌にふさわしい音楽表現を求めたものとなったことがわかる。

【表3 どんな声で歌いましたか？】

どんな声で歌いましたか	回答者数 (複数回答)	その理由はなぜですか？	回答者数
やさしい声	18	(早く・気持ちよく)眠れるように	12
		起きないように	3
		起きてしまわないように	2
		眠りやすそうだから・すぐ眠るから	2
		泣くから	1
		歌いやすいから	1
		赤ちゃんを寝かしつけやすそうだから	1
静かな声	12	(早く・気持ちよく)眠れるように	6
		起きてしまわないように	3
		大きい声で歌ったら、赤ちゃんが眠れないから	3
		眠りやすいように	1
		泣くから	1
低い声	5	早く眠れるように	2
		早く眠るから	1
		大きい声で歌ったら、起きてしまうから(小さい声で歌った)	1
		歌いやすいから	1
		赤ちゃんを寝かしつけやすそうだから	1
ゆっくり	4	早く眠るから	1
		そうすれば眠ると思ったから	1
		起きるから	1
		泣くから	1
		歌いやすい	1
		赤ちゃんを寝かしつけやすそうだから	1
やわらかい声	2	早く眠れるように	2
小さい声	2	寝やすいから	1
		恥ずかしかったから	1
かなしい声	1	にっこりしていたから	1
ふるえた声	1	寒くて口が震えてしまった(次は普通に歌いたいと思う)	1

仮説3) 子どもたちの音楽表現に関する意欲を引き出すことができたか。

疑似体験を行ったことで、子どもたちが子もり歌にふさわしい音楽表現を積極的に探求しようとしている姿勢が推察できる。前述の表3からもわかるように、「ワークシートその2」設問2には、

ほとんどの子どもが、赤ちゃん人形へ「やさしい声」「静かな声」「小さい声」「やわらかい声」で歌ったと回答している。その理由として「赤ちゃんが早く眠れるように」「大きい声で歌ったら起きてしまうから」と記述しており、疑似体験を取り入れたことで、子どもたちの音楽表現に関するイメージを引きだせた。また、子どもたちの回答の中には、「赤ちゃんがそうやって歌うとにっこりするから」というものもあり、身体動作を取り入れることによって対象に関する具体的なイメージが湧き、子どもたちの音楽表現に関する意欲を引き出すことができたと言えるであろう。

仮説4) 個々人の身体動作を、友人や集団と交換したり、共有したりできたか。

子どもたちは、「ワークシートその1」の記入を授業で発表した。設問1の幼かった頃歌ってもらった子もり歌に関する子どもたちの発言の折、それを聞いていた子どもの一人がやさしくトントンと、赤ちゃんに触っているような手の動きをはじめた。これは、友人が小さかった頃歌ってもらった子もり歌の経験を共有しているものと考えられる。また、子どもたちが、実際に赤ちゃんが寝かされている様子を観察し記述した設問2によって、自分自身の幼少時の姿と置き換えることができ、身体動作の共有ができたといえよう。

仮説5) 子もり歌を歌う人の気持ちを理解できたか。

「ワークシートその3」設問1では、世界の子もり歌を鑑賞し、共通点・相違点を記入した。共通点の中に「赤ちゃんを愛する心」という記入が数多く見られ、子どもたちが子もり歌を歌う人の気持ちを察していることがわかる。また、「ワークシートその2」の感想中には、「子もり歌を母さんがいつも歌ってくれていたのはすごく嬉しかったです。この子もり歌を勉強して改めて愛を感じた」「子もり歌は、ただ赤ちゃんを眠らせるだけではなく祖母や母親の愛情が込められていると



ということがよくわかりました」等の記入が見られ、身体動作を取り入れたことで、自分自身が養育者の立場に立つことができ、その気持ちに気づくことができたと言える。

## V 授業者赤穂博子教諭からのコメント

以下に、赤穂教諭からのコメントを記載する。なお、仮説に関連する部分には下線を付し、該当する仮説番号を記した。

赤ちゃんを寝かしつける疑似体験(身体動作)を取り入れたことで、児童の音楽表現を伸ばせたと思う。歌唱表現では、ともすると正しい音程や美しく歌うことにとられがちである。しかし、正しい音程やただ美しく歌うだけでは、本当の子もり歌の理解には繋がらない。今回、疑似体験を取り入れたことで、児童が養育者の立場に近づくことが出来た(仮説5)。そのことは、赤ちゃんが眠るように静かに歌う・優しく歌う・眠りやすいように背中をそっとトントンする等、授業中の児童の身体動作や発表、授業後のワークシートに現れていた(仮説2)。また、児童自身が、自分の両親や祖父母に疑似体験(身体動作)を通して自分を重ね合わせたことで、自分が周りの人たちにいかにか愛されていたのかを知ったり(仮説5)、自分に子が出来たら、今回学習したように子もり歌を歌ってみようと思ったりした児童もいた(仮説3)。今回の授業で子もり歌の本来の機能を理解するばかりではなく(仮説1)、児童の内面にも訴えることができ、そのことが子どもたちの音楽表現を伸ばすことに繋がったと思う(仮説3,5)。

陰陽の音階の聞き分けの授業では、どうしても受身になりがちだ。しかし、疑似体験(身体表現)を取り入れたことで、自分なりの表現を考えることができ、自然と表現が積極的になっていった(仮説3)。ただ、5年生の発達段階から、みんなの前でそういった身体表現をすることが恥ずかしいと思い、十分に身体表現にならない児童も数名いた。その児童には無理強ひせず、積極的に取り組んでいる友達や教師の身体表現の様子に注目させ、苦手そうな児童を中心に支援したりした(仮説4)。授業後のワークシートには、自分が出来なかったことを反省しながらも、周囲の様子から子もり歌の機能を十分理解できていたことがわかった(仮説1,4)。

今後の課題として高学年では身体表現を取り入れる場合には、自由な表現を受け入れる相互の信頼関係を築いておくことや、明るく優しい授業の雰囲気作りが事前に必要であろう。それでも身体表現が苦手だろうと予想される児童には、無理強ひせず、その児童にあった支援の方法を用意しておく必要がある。

## VI まとめ

本実践協同指導者の赤穂博子教諭は、この実践以前、「子もり歌」は静かで緩やかなテンポのた

め音楽表現に緩急をつけられず、子どもたちが早々に飽きてしまうという課題を感じていた。しかしながら、本実践によって、子どもたちは積極的に授業に取り組むことができている、このこともまた本研究の成果のひとつに挙げられるであろう。

以下に冒頭で提示した仮説の有効性について、授業の記録、ワークシートの記述及び赤穂教諭からのコメントを基に仮説の有効性を明らかにする。

仮説1「子もり歌の機能を理解することができる」に関しては、「ワークシートその1」が重要な役割を果たした。幼少時に自分たちが歌ってもらった子もり歌について調べることで、子もり歌が有する機能を自分自身にひきつけて理解している。また、子どもたちが養育者の役割を演じた疑似体験を行うことによって、子もり歌の機能を具体化することができ、より深い理解が促された。更に、世界の子もり歌へ学習内容を拡大することによって、子もり歌が有する機能の普遍性を認識することができ、仮説の有効性が検証された。

仮説2「子もり歌が有する音楽的特徴を具体的に理解できる」に関しては、ほとんどの子どもが、子もり歌の持つ音楽的特徴を身体動作から具体的に理解し、表現の工夫をしていたことが明らかにされ、仮説の有効性が検証された。このことは、前述の表3に示されている。

仮説3「音楽表現に関する意欲を引き出すことができる」に関しては、必ずしも全ての子どもたちに有効であったとは言えない。授業では、赤ちゃん人形を用いることにとまどいを示す男子が数名おり、授業の雰囲気やうまく作り出せなかった。しかしながら、赤穂教諭が「疑似体験(身体表現)を取り入れたことで、自分なりの表現を考えることができ、自然に表現が積極的になった」というコメントを寄せており、課題は残ったものの、身体動作を取り入れることによって、子どもたちの音楽表現に関する意識が自発的なものになる可能性が示唆された。

仮説4「個々人の身体動作は、友人や集団とも交換でき共有できる」に関しては、赤穂教諭のコメントにも記述されているように、疑似体験が苦手な子どもには、積極的に取り組んでいる友だちの様子や教師の身体表現に注目させることによって、身体動作を共有することが可能となった。また、「ワークシートその1」の発表時には、幼い頃友だちが寝かされていた様子をイメージし、自然にトントンと赤ちゃんに触れるような手の動作を始めた子どもも見られ、仮説の有効性が検証できた。

仮説5「子もり歌を歌う人の気持ちを理解できる」に関しては、赤穂教諭が「(子どもたちが)自分の両親や祖父母に疑似体験を通して自分を重ね合わせたことで、自分が周りの人たちにいかに愛されていたのかを知った」というコメントを残している。本学習を行うことによって、子どもたちは、子もり歌に込められた養育者の愛情に気づくことができ、仮説の有効性が証明された。

本論では、子もり歌歌唱時に附随する身体動作に注目し、疑似体験を取り入れた授業を実施、その分析と有効性の検証を試みた。結果として、子もり歌の学習に身体動作を取り入れたことによって、身体動作が歌唱表現に反映され、理解が深まったことが明らかになった。また、地域に伝承されている子もり歌から世界の子もり歌へと学習対象を拡大することによって、子もり歌が有する機能の普遍性と表現の共通性に気づくこともできた。赤穂教諭から「今回の授業で子もり歌の本来の機能を理解するばかりでなく、児童の内面にも訴えることができ、そのことが子どもたちの音楽表現を伸ばすことに繋がったと思う」というコメントも寄せられている。これらのことから、子もり歌学習は、身体動作を伴うことによって、これまで以上に表現が深められることが認められたといえよう。

最後に行った「ワークシートその3」の感想中に、子もり歌の学習を行って「楽しかった」や「よかった」「また勉強をしたい」という意見が多

数見られ、身体動作を視点とした子もり歌の学習が、子どもたちの興味・関心を引き寄せるものになったこともわかった。

## Ⅶ 今後の課題

仮説3に関しては、この方法が全ての子どもたちに対して全面的に受け入れられるものではないことがわかった。具体的には、赤ちゃん人形を教具としたことにとまどいを示した子どもが男子を中心に数人見受けられた点である。このことは、協同指導者の赤穂教諭も指摘している。歌唱共通教材として子もり歌が取り上げられるのは、第5学年である。しかしながら、思春期にさしかかるこの時期には、赤ちゃん人形を扱うことに抵抗を示す子どもがでてくる。従って、このような子どもたちに対して、とまどいや恥じらいを取り除く方法を考え出すことが今後の課題である。授業に用いる教具やその教具導入の仕方、子どもたちへの支援の方法について、今後検討を進めていきたい。

### 【注】

- 1)本論文中で用いる「子もり歌」は、現在歌唱共通教材となっている《江戸の子守り歌》を指している。
- 2)畑中良輔、ほか8名『小学生の音楽5 指導書(平成14～16年度用)』教育芸術社、及び、東京書籍株式会社編集部編『新しい音楽5 教師用指導書(平成4～7年度用)』東京書籍、教育出版株式会社編集部編『新版 音楽5 教師用指導書(平成4年度用)』教育出版等を参照。
- 3)加藤晴子『<こもりうた>にみる音楽教育的機能—音楽感覚の形成を視点とした教育実践への提案—』兵庫教育大学博士論文、2003。
- 4)子もり歌は一般的に、「眠らせ歌」「遊び歌」「守り子歌」に分類されている。
- 5)鳴門市に古くから伝承されている子もり歌《撫養の子守唄》については、今由佳里「地域の音楽学習のための教材開発—《撫養の子守唄》を事例として—」『教育実践学論集6』、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科、2005、pp.79-90を参照のこと。
- 6)スイス・ロマンド(フランス語圏)地方で歌われている子もり歌のひとつである。歌詞の意味は、「ねんねよい子よ、よい子はもうじきおねんねするでしょう。

ねんねよい子よ，よい子はまもなく眠るでしょう  
(拙訳)」である。楽曲は短く，2部形式から成り立ち，穏やかでやさしい雰囲気を持っている。本時で使用する旋律は，ローザンヌ（スイス）在住の Mathilde Rufenach氏が，実際にご自身の赤ちゃん（女兒，1歳6ヶ月）へ歌いかけているものを本人の許可を得て筆者が採譜したものである（録音：2002年10月5日）。

**【音源資料】**

- ・「世界民族音楽体系」第10巻アフリカ 日本ビクター VILG-50110
- ・「Mediterranean Lullaby」Ellipsis Arts 2000 ISBN1-55961-625-3
- ・「安宅さわ代氏の歌唱記録（2004年10月，安宅氏の自宅で録音，今由佳里記録）」
- ・<http://cont2.edunet4u.net/~kukak/start.htm>
- ・<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/1149/furansugo/>